

春ホームページを開設

労働ペンの活動は新展開へ

▼労働法制の今後に注目

懇親会に先だって 15 時半から開かれた総会には会員 66 名が出席した。



中川隆生事務局長が開会宣言。昨年、逝去した孫田良平、長谷川洋三の両会員に黙祷を捧げた後、昨年同様、稲葉康生代表が開会の発挨拶。「昨年は、労働法制が新たに制定されたり規制緩和が進んだりしたので、その実態や今後の課題について当クラブとして、もっと勉強していきたい。そのためにも若い人たちの会員数を増やし、活発な活動をめざしていきたい。また、2016 年は、参議院選挙がある。そのせいか連合の新年会にも多くの人たちが参加していた。

どのような結果が出るか、私たちが大いに注目していきたい」と語った。

▼懸案のホームページを開設

最初は、中川事務局長による「2015 年度活動報告」。ここでは、ヒアリング、アフター5、見学会、ミャンマー訪問などの活動経過や成果が報告された。事務局運営については、プロジェクターを購入したことで、ヒアリングの際、頻繁に使用されるパワーポイントの使用に対応できるようになった。会員管理については、2 年ぶりに会員名簿を改定、全会員に配布した、などの報告がされた。

また大きなニュースとしては、2014 年来の課題であったホームページが、本日、開設したとの嬉しい発表があった。これによって労働ペンクラブの活動が幅広く社会に発信できるとともに会員相互の意見交換、連絡が活発化することになった。さらに総会は、林元夫会計幹事から決算報告、馬場義雄監事からは、会計監査の報告があり、それぞれ承認された。

続いて 16 年度の活動計画について中川事務局長が、ヒアリング、アフター5 を月 1 回、見学会、海外訪問、他団体との懇談会も積極的に取り組むと提案した。なお本年度からホームページが開設したので、今後の活用方法、会報のありかたなどについて、会員からも幹事会に意見や要望を寄せてほしいとも要望した。

続いて関西支部の活動報告と活動計画が、支部長である玉泉孝次幹事によって行われた。会員数は、30 名。その活動は、労働経済トップセミナーの開催、支部通信の発行（年 4 回）などだが、会報の充実した内容が注目された。16 年度には、定例会の開催、共催事業の実施、会員拡大に取り組んでいく方針だという。

16年度の予算については、林会計幹事が説明、会員数の日標を205名（現在197名）として予算規模は、約290万円でクラブを運営していくと報告した。これらの活動計画、予算案は、それぞれ原案どおり承認された。

▼労働ペンクラブ賞に3作品

総会では、最後に労働ペンクラブ賞の発表があった。本年度は、相原正雄さん『読んで楽しむ働くこと』、熊谷謙一さん『アジアの労使関係と労働法』の2作品が労働ペンクラブ賞、岡山茂さん『格差時代の労働法制改革への提言』が奨励賞を受賞した。14年は該当作がなく、奨励賞1だけだっただけに15年は大収穫だった。（夏目孝吉）